

JAMの主張

ロシアによるウクライナ軍事侵攻

平和的手段での紛争解決を

「民主主義」の観点からも支援の輪を拡げよう

【機関紙JAM・ 2022年4月25日発行 第279号】

崩壊した高層住宅。焼き尽くされた車両。列車やバスでの避難。泣き叫ぶ人々――。新聞・TVで、ロシアのウクライナへの軍事侵攻による蛮行の数々が連日欠かすことなく報じられている。収束に向かう兆しは見られず、長期化の推測も多く聞かれる。もう、たくさんだ。

私たちに届く情報の限り、プーチン率いるロシアの主張にまったく理を感じる事ができない。側近の更迭も相次いで報じられ、「殿！ ご乱心」の感が否めない。

「力による一方的な現状変更」は、決して許されるものではない。ロシアに対しては、軍事行動の即時停止と完全撤退、平和的な手段による紛争解決を、さらに強く求めていかなければならない。

今回の戦争は、ロシアの民衆にも多大な影響を与えている。国内での反戦デモなどが伝えられなくなった。戦争を維持するために、強力な言論統制を行っているようだ。ロシアに限らず、香港やミャンマーなどで、武力行使と言論統制による「力による一方的な現状変更」の危機が着々と進行している。私たちは、これらの国・地域の動向にも注視し続ける必要がある。

自由にものを言い、表現することができる。わが国にとってはあたり前のことが、あたりまえでない国・地域がいかに多いことか。日本社会の第一の基盤は、自由選挙が行われていることにある。それだけに、七月に行われる参議院選挙を大切にしなければならない。

長年、投票率の低下が指摘され続けている。この自由な社会を守る第一歩が、投票だ。そして、自らを代弁する候補者に一票を投じることこそ、この国の民主主義を守ることになる。

JAMにとって、今夏の参院選は、私たちの代表「村田きょうこ」を擁しての闘いだ。ものづくり産業と職場を守る闘いであると同時に、私たちの民主主義を守る闘いである、と思いを至らせ、支援の輪を確実に広げよう。

副書記長 椎木盛夫